

平成30年度 いばらき輝く教師塾

期 日:第4日 11月24日(土)

会 場:茨城県教育研修センター

<講義> 一人一人の子どもが主体的に取り組む授業づくり

講義資料



茨城県教育研修センター教科教育課
指導主事 坂本 要

【要旨】

- ・学習指導においては、間違いを大切にし、間違いを批判するのではなく、間違いから学べる集団を形成することが必要である。児童生徒同士、児童生徒と教師の人間関係を構築するためにも、「子どもを想い・子どもと向き合う」姿勢を重視したい。
- ・「授業づくり」は、児童生徒の実態を把握することがスタートである。その上で、学校が目指す児童生徒像や教科等の目標を踏まえ、「育成すべき資質・能力」を明確にすることが重要である。また、児童生徒の発達段階や系統性を踏まえて指導計画を作成することも必要である。

<実践発表> 一人一人の子どもが主体的に取り組む授業づくり

講義資料



筑西市立下館南中学校
教諭 塩谷 かつ子

【要旨】

- ・授業を行う上では、間違いが許される学習集団であること、子どもと教師の信頼関係ができていることが大切である。
- ・教師は、子どもの成長を見守り、子どもが自ら問題解決できるよう、子どもには気付かれないように導く。それが子どもに自信をもたせることにつながる。
- ・子どもに見通しをもたせることが、主体的な学びの基礎になる。「できた」という子どもの笑顔のためには、教師が授業の見通しをもつべきである。

＜ワークショップ③＞ 一人一人の子どもが主体的に取り組む授業づくり



＜特別講演会②＞ 読み書きに困難を示す子ども達への理解と支援 ～困難の疑似体験と具体的な手立て～



NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所
小野村 哲

【要旨】

- ・子どもの特性の違いを理解し、一人一人の子どもの育ち、学びを認め、将来に夢や希望をもてるようにする。
- ・人を生かし、人の中で自分を生かすことができるということが、これからの社会に求められる資質である。
- ・一人で完璧を目指す必要はない。間違っ
てはいけないと思うことこそが間違いである。完璧ではないからこそ、支え合い、子どもに、前を向く姿を見せることができる。

塾生のアンケートより

講義・実践発表・ワークショップの感想

- ・実践発表では、「間違いから学ぶ」という言葉が印象的で、間違っても大丈夫という学級風土をつくるのが大切だと思った。【学生】
- ・実践発表で話された「授業におけるボケとツッコミ」は、子ども達から考えを引き出すためや理由を考えさせるために有効な手法だと思った。【若手教員】
- ・学習課題と評価に一貫性をもたせることや、個人の考えを明確にしてからグループ活動を行うことなど、授業づくりの基本を知ることができた。【学生】
- ・指導案を検討することで、「目標・課題・評価」の統一を図ることが重要であることを再確認できた。【若手教員】

特別講演会「読み書きに困難を示す子ども達への理解と支援」の感想

- ・人によって図形や文字の認識が異なっていることを知った。一人一人の個性を尊重して、授業づくりをしなければいけないことが分かった。【学生】
- ・困難の疑似体験を通して、できないことへの焦りや不安な気持ちを体験することができた。授業を行うときには、子どもの立場に立って、手立てを考えたい。【学生】
- ・子どもと向き合い、何につまずいているのか、何に困っているのかをしっかりと把握した上で、その子に合った支援をすることが大切であると思った。【学生】
- ・「短所にばかり目を向けるより、長所を伸ばすことにより困り感が軽減する」という言葉が心に残った。子どもの長所を伸ばす声かけをして、自信を付けさせることが大切だと思った。【若手教員】